

# はちのへアートプラットフォーム事業について

## 1 プラットフォーム事業立ち上げの趣旨

「はちのへ文化のまちづくりプラン（以下、「文化プラン」という。）」において、「施策6 あつめる・ひろめる～連携のソフトインフラ～」の取組として位置づける当該事業の立ち上げ趣旨は以下のとおり。

文化プラン策定に際し実施した文化芸術団体等活動者に対するアンケートからは、活動者間の情報・連携不足や、学校子どもたちにアプローチしたいがそうした機会をつくり難いなどの課題が見えてきた。

また、平成30年6月に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行されたが、これまで市の文化政策としての対応はなされてこなかった。

今回、文化プランの策定あたって、これらへの対応を含めた諸課題に対し、新たな取組の方向性を各施策の中に位置づけたところであり、これを企画し実行に移していくための体制づくりなどが必要である。

更に、「計画全般に共通する姿勢」の一つとして、「ガバナンス／市民主体の文化芸術振興の取組をベースに、市民セクターと行政が地域づくりを担う、共治（ガバナンス）を実現する」を掲げたところである。

このようなことから、文化芸術に関する様々なステークホルダーが、昨今の文化芸術を取り巻く環境について学び、対等な立場で話し合い、また官民が連携しながら新たな取組にチャレンジし、具体化していくための場として、プラットフォーム事業を展開するものとする。

## 2 プラットフォーム事業の概要

### (1) 運営主体(事務局案)

市単独の事務局ではなく、プラットフォーム事業の趣旨を共有する複数の主体からなる運営事務局を組織し、各々の特徴・強みを活かした役割分担により、事務局機能を強化し運営する。

- 八戸市（案件・課題提供、運営費負担（講師謝礼等）、会場提供、庶務）
- 青森県又は文化関係の国等の機関（テーマに関する先進事例、講師等の紹介）
- 八戸市文化協会（会員への周知・参加、課題把握）
- 報道、金融機関等地元企業（企業メセナ又は地域振興（貢献））

### (2) 事業内容(プラットフォームのコンテンツ)

事業は、「セミナー型」と「実践型プロジェクト」の2本柱を主として取り組む。

セミナー型は、「学びの機会」と位置づけ、文化政策全般や文化プランの各施策に精通した方を講師に迎え、学びと参加者間交流の機会とする。

実践型プロジェクトは、文化プランに掲げる新たな取組について、公民連携で取り組むことをめざし、実践と振り返り・修正、勉強会を繰り返すことで持続可能な取組となることを目指し活動していく。

#### ① 「セミナー型」のテーマ案

- 文化政策全般（施策1）
- 効果的な情報発信に関する取組（施策2）

- 障がい者による文化芸術活動の推進（施策3）
- アート NPO の組織化など民間の中間支援機能の充実（施策5）
- 企業によるメセナ活動（施策6） など

②「実践型プロジェクト」のテーマ案

文化プランの施策の1～4に掲げる主な取組のうち、以下を当面の実践的テーマに選び活動することを想定。

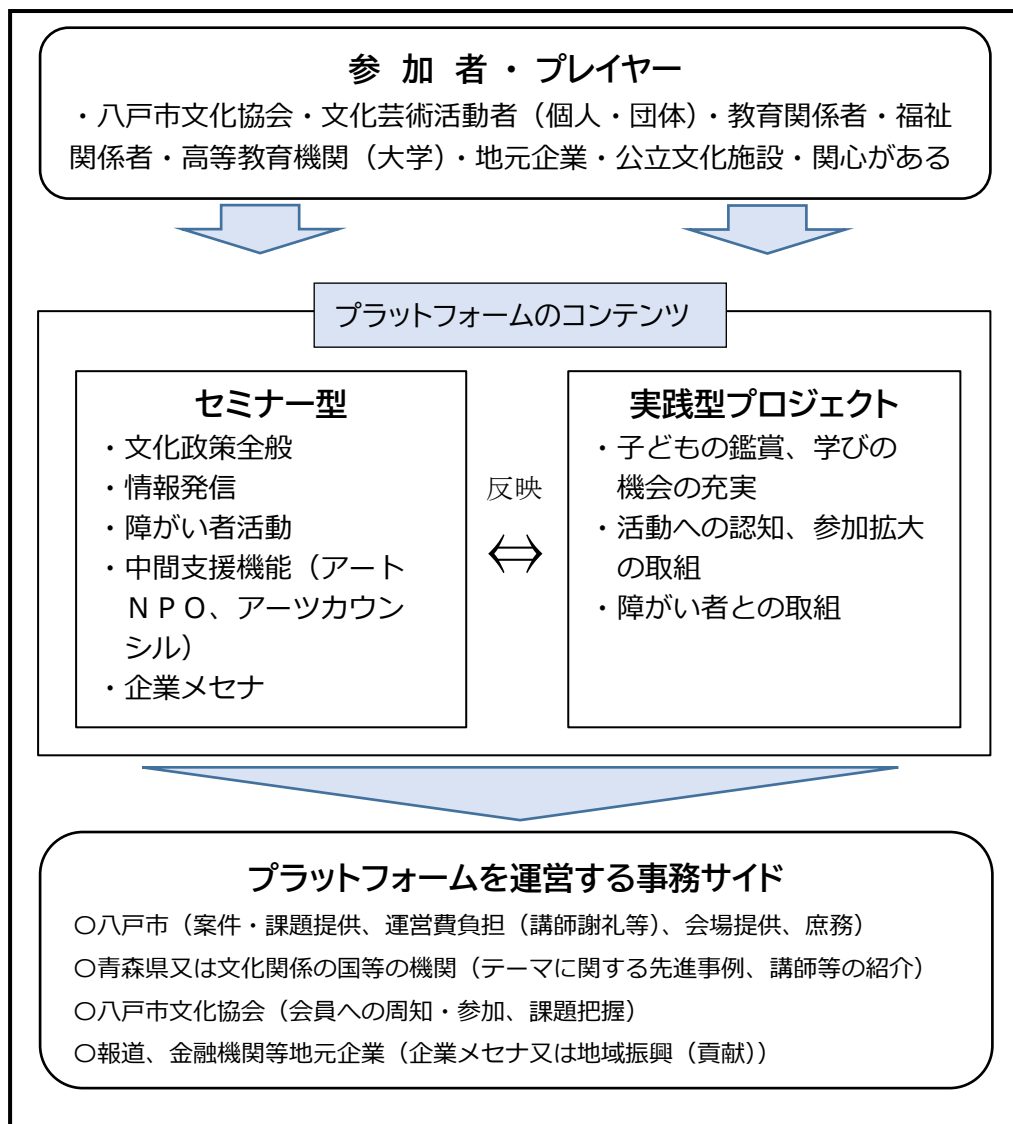
- 子どもたちの文化芸術の鑑賞や学びの機会の充実のための取組
- 文化芸術団体等による活動への認知や参加を広げるための取組
- 障がい者を対象とした取組 など

(3)想定する参加主体(参加者・プレイヤー)

文化芸術活動者（団体）のほか、プラットフォームの取組に興味、関心がある者は、誰でも参加できることとする。

八戸市文化協会会員／文化芸術活動者（個人・団体）／教育関係者／福祉関係者／高等教育機関（大学）／地元企業／公立文化施設／関心がある方

(4)プラットフォームのイメージ図



### 3 プラットフォーム事業を支える支援メニュー案について

当該事業の取組を推進するため、既存の補助制度（ワークショップ開催支援やはちのへ文化のまちづくり推進補助金）を改変し、プラットフォーム事業のコンテンツにあたるセミナー型・実践型プロジェクトの市民等による自主的な取組に対して助成・支援していくことを想定している。

（参考）既存補助メニューの概要

- ・ はちのへ文化のまちづくり推進ワークショップ開催支援  
当市の文化芸術の推進につながる文化的なワークショップ等を所定の施設で開催する場合に、附属設備等を含む施設使用料を全額減免する。
- ・ はちのへ文化のまちづくり推進補助金  
市内で展開される、先駆的・実験的な内容で創造性にあふれた文化芸術活動で、市民が広く参加や鑑賞が可能な取組に補助金を交付する。

### 4 今年度のスケジュール案について

今年度は、事務局を組織すると共に、プラットフォーム事業への理解を広げるため、セミナー型の事業を中心に事業に取り組むものとし、先進事例を含め実践者などから話を聞く学びの機会と参加者の交流促進を図る。

また、実践型プロジェクトのテーマ案に対する参加者の反応を踏まえつつ、実践型プロジェクトの始動に向けた準備を進める期間と位置づける。

- 案
- 1回目：文化政策、プラットフォームの進め方の講義とワークショップ
  - 2回目：テーマ別の講義とワークショップ
  - 3回目：テーマ別の講義と実践に向けてのグループワーク